

2018.2.8実施 地下資源の鉱山分布

〔IV〕 アメリカ合衆国の4種地下資源に関する次の文を読んで、問(A)～(F)について最も適当なものを選び、その記号をマークしなさい。

アメリカ合衆国地質調査所は国内だけでなく世界の地下資源に関するデータベースを作成してきた。図a～dの元データは2010年までのもので、正方形マークで、これまでの産出拠点や稼働前の地下資源可能産出拠点などを示している。図eは州境を含むレリーフマップである。

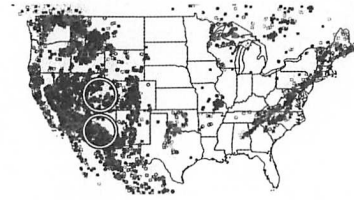
特に図a～cには、現在に至るまでの^{おびただ}夥しい探査と採鉱が記されている。図eと見比べると、アパラチア山脈と、環太平洋造山帯を構成する北アメリカコルディエラの山体にその多くが分布していることがわかる。

図aに対応する地下資源は人類史のうち過去1万年の間、利用されてはきたが、19世紀終わりの電話の発明で劇的に普及してゆく。主要な鉱山としては、図aに大きな◎で示した2州にあった。一つは、ソルトレークシティ南西にある過去およそ1世紀の間、露天掘りて世界をリードしてきたビンガムで、もう一つはモレンシーである。^① ^②

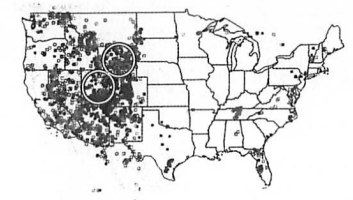
図bに対応する地下資源の採鉱は1940年代終わりから1950年代にかけて最も盛んであった。当時は、環境問題よりも国家安全保障が優先した。現在でもエネルギー政策上、重要な資源ではあるが、環境問題がつきまとい、採鉱場所はこの図bに大きな◎で示した2州などに集約されてきた。^③

図cに対応する地下資源は、不純物を取り除くなどのために図dの地下資源が大量に必要で、19世紀半ばには、図cの産地である五大湖の一つの湖の沿岸から運び出された鉱石は、図dの地下資源の産地に近い五大湖沿岸のゲーリー、クリーブランドなどで精製された。2016年にあっても図cに大きな◎で示した2州でアメリカ合衆国の原鉱のほぼ全部が産出されている。^④ ^⑤ ^⑥

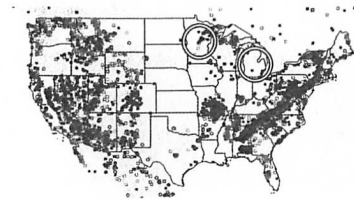
- 問(A) 下線部①と②に該当する州名を、それぞれ末尾の〔語群1〕から選びなさい。
 問(B) 下線部③の2州のうち、1州は問(A)の正解と重なる。他の1州を、末尾の〔語群1〕から選びなさい。
 問(C) 下線部④に該当する湖を、末尾の〔語群2〕から選びなさい。



図a



図b



図c



図d



図e レリーフと州境

- 問(D) 下線部⑤の2都市のうち、クリーブランドが面する湖を、末尾の〔語群2〕から選びなさい。
 問(E) 下線部⑥に該当する2州のうち、より西方の州を、末尾の〔語群1〕から選びなさい。
 問(F) 図a～dに該当する地下資源を、それぞれ末尾の〔語群3〕から選びなさい。

〔語群1〕

- | | | | |
|----------|----------|--------------|----------|
| (ア) アリゾナ | (イ) ネヴァダ | (ウ) ウィスコンシン | (エ) オレゴン |
| (オ) メーン | (カ) ミネソタ | (キ) ペンシルヴェニア | (ク) ユタ |
| (ケ) ミシガン | (コ) オハイオ | (サ) ワイオミング | |

〔語群 2〕

- (ア) エリー湖 (イ) オンタリオ湖 (ウ) スペリオル湖
(エ) ヒューロン湖 (オ) ミシガン湖

〔語群 3〕

- (ア) 金 (イ) 石炭 (ウ) 天然ガス (エ) モリブデン
(オ) 銅 (カ) 石油 (キ) ニッケル (ク) アルミニウム
(ケ) 鉄 (コ) 亜鉛 (サ) ウラン

(以上)